

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.34



★今年も「住民懇談会」を3地域で開催しました！

今年の懇談会は「高齢社会を考える～認知症・見守り～」というテーマで開催し、地域の抱える問題や高齢者を孤立から守るためのご提案などたくさんのご意見をいただき、皆さんの切なる思いがひしひしと伝わってきました。

高齢者の方が住み慣れた地域で安心して住み続けられるため「地域包括ケアシステム（医療・介護等のサービスを地域で包括的に提供する仕組み）」の確立は急務ですが、本来目指す姿と現実とは乖離している状況にあります。

高齢化に伴い、介護が必要な方が増加していく反面、入所できる施設には限りがあり、結果的に在宅で訪問医療等を受けながら暮らし続けられる体制を作らなければなりません。

しかし、訪問医療を提供できるだけの医師、看護師など医療従事者が確保できていないのが実情です。かつて私が子どもの頃は、旧市内には医療機関が数多く開業しており、弥生町だけでも6軒以上あったのが現在は2軒に減少するなど、当地域では深刻な医師不足が進み、誰もが主治医を持って医療の提供を受けるのは困難となっています。

今回の懇談会でご意見が出たように、その不安に対する解決策を行政に求めるのは自然の流れですが、行政のみで応じていくことは不可能です。その状況に対応する「地域包括ケアシステム」は、医療・介護が柱となりますが、先に述べたように課題も多く、地域において支える仕組みを構築することが肝になると思います。

私は、これまでもあらゆる場面において「市民協働社会」の必要性を提唱してきましたが、まさに「地域包括ケアシステム」を支えるための重要な土台であると思います。

誰ひとり取り残さない社会を作るため「市民協働社会」の構築に市民の皆さんのご理解ご協力をお願いします。

★新作大型立佞武多「閻魔（えんま）」を発表しました！

来年の新作立佞武多は「かぐや」制作者の「忠汰」と齊藤忠大氏による「閻魔」を題材とすることを発表しました。

今年の夏祭りの閉会式において「かぐや」は不朽の名作であり、別れるのは非常に惜しまれると私個人の心情

を吐露しましたが、令和元年制作の「かぐや」は来年6年となり、耐用年数を考えれば引退せざるを得ないと判断しました。

そして、新作「閻魔」ですが、当初、忠汰氏本人からこの題材の話を知った際、氏が近年制作した作品とは全く趣が違う迫力のある題材で、正直、驚きを禁じ得ませんでした。

しかし、その題材に込める真意が、死者の生前の善悪を裁くという厳しさの中にも、世代を超えて親しまれてきた「閻魔大王」をモチーフにしながら、現代を生きる我々に対する警鐘を鳴らしつつ、社会全体が大きな岐路に立たされている今こそ「これからの未来を担う子どもたちへ道を示したい」という切なる思いに大きな共感を覚えました。

令和5年も暮れようとしています、社会情勢がさまざまな課題を抱え、先行きが不透明な時代の中、来年以降、この「閻魔」にあやかり、時代の波に流されずに市民の皆さんと連携を深めながら、しっかりと信念を持って地域のあるべき将来像に向かって進んでいきたいと思っています。

★金木地域のイベントに期待すること

少し前の話になりますが、10月に「津軽三味線全日本金木大会」「仁太坊まつり」が開催されました。これらのイベントは、金木が発祥の地とされる「津軽三味線」を生かした全国に誇るイベントですが、その盛り上がりは、私としては寂しく感じました。これを地域活性化につなげるイベントとしてどうあるべきか、再考する必要があると感じました。

来年2月初旬には金木商工会が主体となって「馬肉料理」をメインとしたグルメまつり「うまいもんフェスタ in かなぎ」が今年に続き開催予定ですが、金木の目玉イベントの一つとして今後定着させていく価値はあると思っています。

「誰かがやる」ではなく「自分たちが盛り上げる」という思いが無ければ、訪れる方を心から満足させるイベントにはならないと思います。

金木地域のみならず、地域の皆さんが主体的に「参加する」という意識を持っていただき、各団体等が連携を深め、地域全体で盛り上げることで、イベントがより一層輝きを増し、地域全体の活性化にもつながるものと期待しています。



今年度の「市浦地域住民懇談会」の様子



今年の夏まつりが見納めとなった『かぐや』の勇姿